1月給食だより



令和8年1月



1/24~1/30 は *** ごく かっ こうきゅうしょくしゅう かん 「全国学校給食週間」です 日本の学校給食のあゆみ。

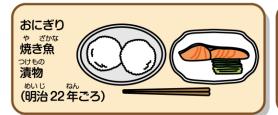
がっ こう きゅう しょく

ょく はじ

学校給食の始まり



明治 22 (1889) 年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。 かっこう たいとく じ てら なか ほう いえいほ まわ きょう とな かね た もの つか この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使っしょくじょうい たいしょう ねん こ えいようじょうたい かいせん ほうほう かっこうきゅうしょく て食事を用意していました。大正 12 (1923) 年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食 (に しょうれい かくち ひる せんそう しょくりょうぶ そく ちゅうし え がち ひる おも へに しょうれい かくち ひる せんそう しょくりょうぶ そく ちゅうし え がち ひる おも ひる かっこうきゅうしょく が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。







し えん ぶっ し

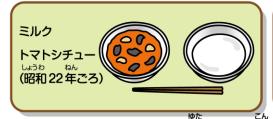
がっ こう きゅう しょく

さい かい

支援物資による学校給食の再開



せんこ こ えいようじょうたい あっか しんばい こえ たか しょうわ ねん かつ か ララ きゅうえんこう 戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和 21 (1946) 年 12 月 24 日に LARA (アジア救援公にんだんたい きゅうしょくようぶっし きぞう う よく かっ かっこうきゅうしょく さいかい とうしょ かっ か かっこうきゅうしょくかんしゃ ひ 認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」 こ ふゆやす かさ か しゅうかん ぜんこくがっこうきゅうしょくしゅうかん としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



コッペパン・ミルク
たった あ
クジラの竜田揚げ
ぜん切りキャベツ
しょうわ ねん
(昭和 25~30 年ごろ)

バラエティー豊かな献立内容に

| Lish | Rah がっこうきゅうしょくほう せいりつ | Lish | Rah |

ミートスパゲッティ ^{ぎゅうにゅう} 牛乳

フレンチサラダ しょうっ (昭和 40~50 年ごろ)



カレーライス ぎゅうにゅう しお 牛乳・塩もみ たまご ゆで卵

しょうわ ねん (昭和51年ごろ)





がっこうきゅうしょく ないよう じだい へんか こだい か ここのように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。 現代では、大人になってもじぶんじしん かんが けんこう しょくせいかっつづ がっこうきゅうしょく きょうさい やくわり にな自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。